

# 北京の騒乱治まる

## 走資派批判行き過ぎに怒り

ひさしぶりに北京が燃えた。首都・北京でこんな騒動が起こったのは、初めてのことだ。

今回の騒動は、故周恩来—鄧小平の路線を支持する実務派（穩健派）が、江青—姚文元らの文革左派に正面から巻き返したに出たものである。

江青らは「走資派批判」ということで、経済建設を重視する鄧小平の追い落としにやっきになってきた。文革左派は、「人民日報」や「紅旗」を叩き回している。一見派手に見えるが、全国的にはまた力が弱く上海、杭州、山東などで方を持っているにすぎない。

党内でも宣伝、教育、文化の部門を握っているだけであり、解放軍も鄧小平支持の陳錫聯（北京军区司令官）に掌握されている。

いきおい、毛主席の名前に頼って鄧批判をやらねばならず、党の正式機関で鄧失脚を決定することまでできないでいる。

文革左派の実体は、毛沢東の側近グループであるが、彼らは毛沢東以後の自分たちの立場にたいへ

んな危機感を持っている。

だから毛主席が健在なうちに鄧小平を完全に床殺しようとしているのだが、それは周恩来批判に発展させるを得ない。今回の事態は江青たちの「周恩来批判」に大衆の怒りが爆発したということである。

北京での騒動は一日でおさまったが、江青たちへの実務派の反攻は全国に飛び火し、周恩来に手を

## 億万長者ヒューズ死す

【ニューヨーク発五日（AP）】

アメリカの億万長者で、米国防財界を陰から動かしていた男、ハマード・ヒューズがアカプルコからテキサスのヒューストンへの途中、飛行機の中で死した。七十歳。これまでメキシコで隔離生活を続けており、「外界」からの接触をいっさい断っていた。

一九七三年からの三年間というもの、自分だけの生活をしていた模様。億万長者の生きざまは、ホテ

つけたがゆえに、江青たちは一層苦境に追い込まれることになろう

中嶋 嶺雄氏（東京外語大助教）の見方 今度の事件では軍は憤慨だし、内部騒乱までは進まない。暫定的な中国の大衆は、実務派を支持している。むしろ、文革派は政治を私物化しているのとみていた者が多かった。

だから、文革派があまり先走りすれば、走資派批判の先頭に立つ江青の運命は危くなる。また、毛沢東も、無理に実務派を抑えようとするれば、場合によっては毛批判も出かねない。

ルのトップ層での一人暮らし。ラスベガスの砂漠から始めて、ハマード島、ニカラグア、ロンドン、メキシコと転々としていた。一九二三年から五三年間も、「ビジネスの王」として君臨。ホテル業、映画界、バクチ、外国貿易、石油産業、とありとあらゆる分野でトップの座を占めたヒューズの死は、各界にショックを与えている。